



塾全協新聞

題字：怜齋 (白川亮 進ゼミ柏)

発行：NPO法人学習塾全国連合協議会
全国事務局長・東日本ブロック
広報局長：中村基和
発行日：2019年(平成31年)4月

官は不易を、民は流行を ～民から官への潮流の下に～

NPO 塾全協 全国会長 沼田広慶 (千葉県松戸市 北辰館スクール)



皆様には日頃より NPO 塾全協の活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

今年は改元という大きな節目の年であり、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されるという何かとあわただしい動きの中で新年度を迎えることになりました。

教育界におきましても、ここ数年来、大きな変革の動きがあります。英語の4技能学習や課題解決型能力の育成など新たな視点を取り上げられており、経産省が主導する第4次産業革命や EdTeck の導入などとともにそれらへの対応が喫緊の課題となっています。

AI やロボットの活用は人類文明の必然的な流れと言ってよく、ICT やIoT の発達と相俟って従来の教育指導方法を一変させることは時間の問題と言っていいでしょう。我々塾人にとりましてもこれらの動きを見極め早急に対応することが求められています。

ただここで気になっていることがあります。第一にはこれらの教育上の変革が官から民への流れであり、官の主導によって行われようとして

いることです。明治の近代国家建設の時代ならば国家権力による迅速な公教育の育成はやむを得ないことだったかもしれませんが、国民に主権があり、親の教育権が認められている現代では教育は民が主導するものでなければならないと思います。民間教育界が日本の教育は如何にあるべきかのビジョンを提示し、さらにはそれを自らの力で実践し、官がそれを範として取り入れていく流れこそが民主国家における教育の本来あるべき姿ではないでしょうか。民間教育界においてシンクタンクを設立し、民が官を導くような社会を目指したいと思います。また、学校は週5日、午前中で終了し、部活動等も週3回以内で1回2時間までとし、後はスポーツにせよ学習にせよ、民間で個々の能力と目的に対応した教育を受けるとするのが理想です。インターネットを活用した家庭学習も広く普及することでしょう。公教育の存在を認めるに決してやぶさかではありませんが、政府は民間教育の拡充にこそ優先的に予算を使うべきです。勿論、民間教育の側でも国の補助を最初からあてにするのではなく、自らの力で成し遂げるような気概を持つべきだと思います。

第二には学校での教育内容です。学校では児童生徒の学力差や能力差を勘案した学習指導を行うのに限界があることは否めません。個々の能力差への対応も、時代的変化への対応も民間教育に任せるべきです。公教育は国民として必要な最低限の基礎的学力や専門的学問の土台となるような基本を身に付けさせることに専念すべきだと思います。不易と流行という言葉がありますが、学校では不易を、民間では流行をというのが

理にかなっているのではないのでしょうか。勿論、民が不易を担ってもいいのですが、学校はあくまで不易だけを担うべきです。大学では最近になって人文科学・社会科学・自然科学の基礎を横断的に教育するリベラルアーツに関心が高まっているようですが、複合的な視点からの問題解決能力が求められている現代社会では当然の帰結だと思います。小中高校でも国語の4技能を中心に文学、歴史、哲学といった思考の土台となるような学習に集中すべきです。人間としての生き方の基本となるべき知識や教養を身に付けることが大切です。

そうした意味では外国語学習やプログラミングといった時代の流れに対応した教育は全て民間で行われるべきなのです。幕末、オランダ語から英語へと外国語学習が大転換したことを思えば英語は不易ではなく流行なのです。欧米の植民地でもない日本が公教育のカリキュラムに英語を加え、しかも入試でも最重要科目としていることは間違っていると言わざるを得ません。最重要科目は国語であり、日本語の4技能こそがまずは優先されるべきです。誤解のないように申し上げますが、英語が不要だと申し上げているわけではありません。インターネットでも英語が世界を席卷している今日、学問の世界でもビジネスの世界でも英語は必修と言っていいでしょう。しかし、それでも学校では不易の学習に徹すべきだと思います。機を見るに敏なるは民であり、官の変革は百年河清を俟つに等しい。しかも、あえて言えば現在の学校英語の非効率性は火を見るより明らかです。例えば、既に英検4級や3級以上を取得している小学生が、

ABCからやらねばならない生徒と一緒に中学1年生クラスで学習することを考えればわかります。もはや議論の余地はありません。英語指導の早急な官から民への移行が求められる所以です。プログラミング教育も同様でしょう。

米中経済戦争、英国のEU離脱問題、北朝鮮の核ミサイル開発、米ロのINF条約(中距離核戦力全廃条約)の破棄等に加えて解決されない難民問題や地球温暖化など国際社会は不透明感と危機感が募っています。その上、強欲資本主義が世界中にはびこり、効率至上主義と拝金主義が人間としての尊厳やゆとりある生活を人類から奪いつつあります。今こそ人類は知足と共生の思想を学ばねばなりません。一方、日本では学生から社会人までがテレビの娯楽番組とゲームに夢中になり読書時間が減少の一途をたどっています。このままではこの国は遠からずして亡国の道をたどることになるでしょう。衆愚民主社会は最悪の結果をもたらします。衆

愚社会はポピュリズムを生み、ポピュリストたちが議会制民主政治によって「自由と平等」ではなく「専制と不平等」を生み出す危険性を孕んでいます。教育こそが危機を救うのであり、希望であります。真の教養は自ら考える力を育て、どのような社会にあっても各自に偏りのない正しい判断基準を与えるものです。知識や技術はその上にあつてこそ輝くものとなるでしょう。

官から民ではなく、民から官への潮流を目指すとともに、官は不易を、民は主として流行を担うようにこの国の教育を変えていくことが肝要だと思います。

時代を背負う子どもたちが明るく豊かな未来を送れるように、お互いに全力を尽くしたいと思います。会員の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念いたしまして、新年度を迎えての所感といたします。

問題解決能力

NPO 塾全協 東日本ブロック 理事長

内藤潤司 (埼玉県狭山市 ソロモン総合学院)



毎年七月に東京ビッグサイトで、国内最大規模の教育、教材展が開かれます。ほぼ毎年参加するのですが、その展示会で、三〇前後講演会があります。その中でも人気のある講師には大きな会場が用意されるわけですが、その大きな会場で、経済産業省・教育産業室長の浅野大介氏の講演がありました。私は既に二、三回聞いていたのですが、申し込み、聞きに行きました。講演中、塾の教育に果たしてきた役割について、時間をかけて話しておりました。少々気恥しい思いを感じる程、塾の教育を評価してくださいました。彼自身が、個人塾の素晴らしい塾長に会い、東京大学に合格したとも以前聞いたことがあります。さらに驚いたことには、500人近くの参加者がいましたが、塾関係者は10%もいませんでした。教育委員会関係、大学、高校関係者のネームプレートをしている人達がほとんどでした。隔世の感がしました。

彼の持論によると、これからの教育は、子供に「問題解決能力」が必要で、これが身につかなければ世界で競争出来ないと断言するわけです。問題解決能力を、我々は、意図的に教育してきたであろうか。問題解決能力をどのようにすれば、教育できるのか。自問する日です。

先週、モンテッソーリの教育を勉強するため、本場イタリアに60歳を過ぎてから2年間

留学し、ディプロマの資格を取って帰国した方を訪問いたしました。生徒の自主性を最大限に尊重し、優れた教材・教具を拝見して参りました。日本の教育とは、全く異なり、教師が教えることなく、生徒の自主性を尊重

し、手助けに徹底する姿勢に驚きを隠せませんでした。アメリカの起業家の多くがこの教育の出身者であることを考えると、無視できない教育方法でしょう。彼の熱く語る教育への情熱にただ脱帽するのみ。

NPO 塾全協東日本ブロックの1年 (2018年4月~2019年2月)

第3回 東西ブロック合同 現地研修会

「都立上野恩賜公園を歩く」

日時: 2018年4月8日(日) 13:30~16:30

場所: 都立上野恩賜公園

解説とガイド: NPO 塾全協全国会長 沼田広慶

参加者: 10名 (西日本ブロックからも2名参加)



上野というとなんか思い浮かべるのは動物園、博物館、美術館ですが、実は慶喜の墓を始め歴史的なものが沢山ありました。上野にも東照宮がありました!

主催:自由民主党

日時:2018年(平成30年)4月11日(水) 11:00~12:00

場所:衆議院第二会館 1階 多目的会議室

参加者:国会議員・代理37名、各省庁関係者10名、塾その他の関係者99名
参加塾団体:公益社団法人全国学習塾協会、全国学習塾協同組合、NPO法人学習塾全国連合協議会 一般社団法人日本青少年育成協会、私塾協同組合連合会、民間教育連盟、全日本私塾教育ネットワーク、関西塾団体協議会、学習塾団体合同会議 千葉学習塾協同組合



この会は昨年数回行われ、塾団体としては部活の制限などの要望を出しました。

東日本ブロック総会

日時:2018年5月20日(日) 16:10~17:00

場所:アットビジネスセンター 東京八重洲口

平成29年度の事業報告と会計報告が承認された後、新年度役員選挙が行われ、その後、新年度の事業報告と予算案が承認されました。新年度

の東日本ブロックの常任理事は以下の8名が選出されました。(敬称略、順不動)

沼田広慶(北辰館スクール)、内藤潤司(ソロモン総合学院)、稲葉秀雄(秀和教育センター)、山本太志(四季青舎柏)、星野重治(総合学習塾マインズ)、星野勝弘(オンフット進学会)、中山和行(中山塾)、中村基和(むさし野ゼミナール)

第17回中高入試を考える会、私学と私塾の新年度情報交換会

日時:2018年5月20日(日) 17:30~19:30

場所:アットビジネスセンター 東京八重洲口

講師:森上展安氏(森上教育研究所)、穴澤嘉彦氏(創育・新教育研究協会)、五十嵐裕明氏(進学研究会)、岩佐桂一氏(岩佐教育研究所)

参加者(中高入試を考える会、私学と私塾の新年度情報交換会 共に)40名
*今回は私学のイベントとバッティングしていたため、夕方から2つの会を合わせた形で催しました。



3つの進学相談会

① 第39回 私立中高進学相談会

日時:2018年9月18日(月・祝) 11:00~15:30

場所:新宿NSビル イベントホール

ブース参加校:120校

来場者数:約3800名



② 第30回 (千葉地区) 私立中高進学相談会

日時:2018年9月24日(日・祝) 13:00~17:30

場所:ザ・クレストホテル柏

ブース参加校:37校

来場者数:約800名



③ 第30回 (埼玉地区) 私立中高進学相談会

日時:2018年9月30日(日) 15:00~18:15

場所:川越プリンスホテル

ブース参加校:38校

来場者数:約683名



第44回 NPO 塾全協 全国研修大会

担当：NPO 塾全協東日本ブロック

日時：2018年11月4日(日) 15:00~17:30 場所：アットビジネスセンター池袋駅前別館 7F 705号室

講師：出口 汪 氏(広島女学院大学客員教授)

講演テーマ：**グローバル時代にこそ必要な国語の論理教育**

主催：NPO 法人学習塾全国連合協議会

実行委員長：NPO 塾全協理事 星野勝弘(千葉県柏市 オンフット進学会)

AI がなぜ東大入試に合格できないのか。漢字の書き取りなんて辞めよう。2030年にはほぼ全部の言語の自動翻訳機ができるから英語の勉強は一般的には必要なくなる。6歳時に国語能力の基本が出来上がり、12歳までに読解力を鍛えなければならない。など、強烈で印象的な講演でした。

*講演の概要はNPO 塾全協のホームページの「会員専用ページ」からご覧ください。



大会宣言

平成28年の文部科学省の調査によれば、諸外国に比べ、我が国の子どもたちは、学力はトップレベルであるにもかかわらず、自己肯定感がかなり低い状況にあるそうです。

ひとつには、教師や親から指示を受けないと行動ができない、いわゆる「指示待ちの子どもたち」の増加にその原因があると言われています。実際、現場で教えている先生方からは、教科書すら自分で読もうとしない、あるいは読み取ることができない子どもたちが増えているという声を多く耳にします。

その一方でIT技術やAIを中心とした第4次産業革命は加速度的に進み、今後10年のうちに、現在の約半数の仕事がAIに取って替わられるという予測すらあります。

このような状況の中、「未来からの留学生」たる子どもたちに、私たちは何を教え、何を身につけさせればよいのでしょうか。

2020年の大学入試の大改革を控え、とりわけ英語の4技能に注目が集まっています。しかし、自戒の念も込めて言えば、ややもすれば、ただ英語でコミュニケーションが図れることだけを目指す教育に陥りがちではないでしょうか。

それではAIと共存する力を子どもたちに身につけさせることにはならないでしょう。ただ翻訳する技術など、おそらくはすぐにAIに取って替わられる技術でありましょう。

欧米を中心とした海外に目を向けると、言語技術(Language Arts)が教育の重要な科目として注目されています。私たちの思考を担う母国語において、論理の力に基づいた読解力やより深い思考力、そしてそれを的確に表現する力を身につけさせるという教育です。

AIが広く実装され、グローバル化されてゆくこれからの社会のなかで、

どのような環境の変化にもぶれずに対応できる力として、我が国においても、論理力にこそ重きを置いて教育を進めてゆくことが大切でありましょ

う。

2018年11月4日
NPO 塾全協 第44回全国研修大会実行委員長
星野勝弘



←大会宣言を読み上げる星野実行委員長

第44回全国研修大会を振り返って

今回で私が担当となって2回目の全国研修大会となりました。前回の大会の直後から、反省も含めて二つのことが常に私の頭の中に居座り続けていました。

一つは、テーマをどうするかということでした。2020年の大学入試改革を控えて、どこの団体も英語の4技能についての研修を行っていて、業界全体としてかなり食傷気味となっているように感じていました。では何をテーマにしたら良いかということで、他の先生方のお話やインターネットの情報をもとに、日頃はあまり読まないような本も数冊読みました。その中に人工知能(AI)についての本がいくつかあり、将来、AIに仕事を取って替わられないようにするためには、国語の読解力の涵養が必要であるということが書かれていました。実際、現場で教えている実感としても、入試問題は説明文や資料の読み取りが長くなる傾向がある一方で、スマートフォンを使ったSNSなどの短い文章のやり取りばかりで、少しでも長い文章は最後まできちんと読まない、あるいは読めない生徒が増えていることに強い危機感を感じていました。

そこで、今回はAIと絡めた国語の読解力をテーマに講演をしていただくことと決め、国語の先生と言えばやはり出口先生だろうということで、すぐに頭に浮かんだのですが、実は私がまだ大学生のころ某予備校でアルバイトをしていた際、出口先生は当時からすでに現代文のトップ講師で、他の多くの講師が授業とは関係のない小話などで生徒たちを笑わせて人気を得ていたのとは対照的に、授業中に全く冗談を言うことなく、ただその授業力だけでトップ講師となっていた出口先生にはかなり近づきがたいイメージを抱いていました。そのため、こちらからアプローチをかけることに少し躊躇していましたが、幸いなことに、出口先生が小学生向けの「論理エンジン」という教材を出版されたということで、出版社の方から講演会の案内をいただき、そこで出口先生と直接お会いするという機会を得ました。講演中から当時と変わらないオーラは感じていましたが、講演後、勇気を出して直接出口先生に講演のお願いをしたところ、非常に紳士的にご対応いただき、その場ですぐにご快諾をいただくことができました。

研修大会でも約30年前の当時と同じく、ほとんど冗談は言われませんでした。話される内容で私たちを惹きつけてくださり、出口先生のおかげで、内容的には非常に中身の濃い研修大会となったのではないかと安堵しております。

二つ目にずっと気がかりだったことは、研修大会での赤字を何とか縮小できないかということでした。当初は前回同様、市ヶ谷の私学会館を会場

として予定していましたが、4月の段階ですでに11月の日曜日と祝日はすべて埋まってしまっているという状況で、急遽別の会場を探さなければなりません。その後いくつか目ぼしいホテルなども当たってはみましたが、11月3日前後はどこも空きがない状態で、いよいよ困ったというときに内藤理事長に相談した際、「前例にこだわらず、星野さんの思うようにやったらいい。」という力強いお言葉をいただき、気がかりだったコスト削減のために、今回は思い切ってビジネスユースの会議室で大幅にコスト削減を試みてみようという勇気を持つことができました。

実際には会場費は前回の約半分以下にまで削減することができましたが、初めて利用する場所ということもあって、会場の担当の方との打ち合わせには、だいぶ苦勞をしました。事前に荷物を届けることに制限があったり、受付の場所などにも交渉が必要だったり、私学会館とはだいぶ勝手が違っていたため、結果的に会場の準備にかなり時間を割くことになりました。中でも一番困ったのは、会場に吊り看板が出せないということでした。個人的には、会場のグレードは下がっても、全国研修大会とうとう以上、吊り看板は最低限必要なものだと考えていたため、今でもこの点には悔いが残っています。

また、案内の告知についても、前回は進学研究会さんにご協力をいただき、都内の塾を中心に900部ほど無料で配布していただいたのですが、今回は進研さんの模試の告知とタイミングを合わせるができず、結果的に前回に比べ、郵送料がかなりかかってしまった点も大きな反省点です。

なお、動員に関しては、会場が130名から80名と狭くなった分、前回ほどのプレッシャーを感じずに済みましたが、やはり最終的には、社団の安藤会長をはじめ、AJCの森先生、私塾ネットの谷村先生、埼玉協同組合の坂田先生など他団体の先生方にも多くご参加いただけたことが大きな助けとなりました。この場をお借りして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

またもちろん、内藤理事長をはじめ、塾全協の理事の先生方にもいろいろな面でご協力をいただき、何とか無事に研修大会を終えることができました。

次回についてはまだ何もアイデアがありませんが、もしまた私が担当ということになりましたら、今回の反省点を踏まえて、少しでも塾全協の会員の皆様に資するようなテーマや、より良い研修大会の形を模索してゆきたいと思います。

本当にありがとうございました

第44回全国研修大会 実行委員長 星野勝弘

2018年NPO塾全協東日本ブロック教材教具展

日時: 2018年12月14日(金) 12:30~15:30

場所: 松戸商工会館5階

後援: 公益社団法人全国学習塾協会

参加企業数: 24社 来場者: 約40名

*進学研究会の五十嵐氏による高校入試セミナーもありました。(写真一番右)



第1回NPO塾全協東西合同忘年会

日時: 2018年12月16日(日)~17日(月)

場所: 箱根湯本 吉池旅館

参加者: 15名(西8名、東7名)

初めての企画でした。場所が箱根なので多少お金がかかりましたが、良い時を過ごすことが出来ました。



東京地区主催 経営研修会

日時：2019年1月16日(水) 13:00~14:30

場所：アットビジネスセンター池袋駅前別館 806号室

講師：小林弘典氏 (PS・コンサルティング・システム代表)

テーマ：中小塾が生き残るためには…

*講演の概要はNPO塾全協のホームページの「会員専用ページ」からご覧ください。



ここ4、5年は混迷の時代で、その後は分からない。プログラミングがどこまで入り込むか分からない。当面、大都市圏はさほど少子化がない。これからは高校生が狙い目である。など小林先生のお話は常に参考になり、勇気を与えられます。

小中学校の定期試験と宿題

NPO塾全協 全国事務局長・東日本ブロック広報局長長

中村基和 (東京都中野区 むさし野ゼミナール)



小中学校の教育で長い間ずっと問題だなと思っていたのは定期試験と宿題と部活です。今回は定期試験と宿題について述べさせていただきます。

【定期試験について思うこと】

中学時代、私自身どうやって対策をとっていたかという、英数国以外は試験の1、2週間前に少しずつノートを書き写して暗記に務める。前日は覚えきるまでひたすら暗記。言ってしまうと一夜漬け。試験が終われば忘れてしまうという刹那的勉強でした。私らの1つ前の世代までは都立高校の入試科目はなんと9教科。入試は1年から3年までの内容が全部出る。こんな勉強では高校入試に対処できないと常に悩んでいました。塾の教師をし始めてからも同じことで常に悩んで来ました。定期試験で良い点をとる生徒も大抵は実力テストや模擬試験では大した点がとれていません。ましてや定期試験の点数の良くない生徒はひどい状況です。以前習った

ことをすっかり忘れています。こんなんでどうすると言っても定期試験は無視できません。これでは通信簿=内申点が決まるからです。また、学校より先に進んでいる上位層の生徒は、定期試験が近づくと一端進むのをストップせざるを得ません。これはある意味復習になるから仕方がないとしても、反対に基礎からやり直している生徒、特に英語では折角基礎の復習を順調に行ってきたのにそれを中断して、2週間くらいは付け焼き刃的に試験範囲のことを、理解しなくても良いからただひたすら覚えるということになってしまいます。定期試験は邪魔なのです。モチベーションのため、成績をつけるため定期試験は必要というのはわからない訳ではありませんが、一夜漬けの勉強はナンセンスです。

【宿題について思うこと】

定期試験前になると、生徒たちは学校でもらった問題集をよくやっています。大抵は試験範囲の単元をやって、解答を見て自分で答え合わせをして間違い直しをして提出させられます。「良いことじゃないか」という人もいるでしょうが、次の点で問題があります。まず通信簿が1から5の生徒まで一律に同じ問題をやらせることの非効率性です。大抵は4の生徒には丁度よいが、5の生徒には簡単すぎて字を書く練習にしかならず、3の生徒には半分はわからず(特に数学の証明など)、1と2の生徒は歯が立たないというものです。つまり大部分の生徒は赤ボールペンで答えを書き写しているだけという状態になっています。でも、自分でじっくり考えずに丁寧に答えを書き写す生徒が良い評価をもらったりしています。生徒たちはいわば「偽善的」勉強を強いられているのです。

あと、問題集に直接書き込ませるのも問題です。1回しか出来なくなるからです。一方、塾、特に個別指導の塾は本人にあった宿題を出すため、無駄ではありません。

また、小学生の夏休みの自由研究も大いに問題ありです。一部は素晴らしいものがあるのは知っていますが、大抵は親泣かせです。つまり親がやっているようなものです。意味がありません。

【麹町中学校での大改革】

ご存じの方も多いと思いますが、最近千代田区立麹町中学校では工藤勇一校長のもと、定期試験の廃止、学級担任の廃止、そして宿題の廃止を始めました。定期試験をやらない代わりに単元別テスト(再チャレンジが出来ます)を行い、従来年3回であった実力テストを5回に増やしました。理由は私が先ほど述べたのと同じように一夜漬けという悪癖をなくすこと、そして宿題も定期試験も目的を達成するための手段として適切ではないこと、簡単に言えば通知表をつけるために行われているのが現実であることです。この結果生徒たちは家で机に向かう時間が増えたようです。

ただし、麹町中学校は、番町一麹町一日比谷一東大という言葉があったとおり、かつては日比谷高校に毎年100人合格者を出していた公立の名門で、半分以上の生徒が越境です。生徒の学力レベルも親の教育意識も高く、あまり「公立」とはいえないような学校ですので、「一般の」公立中学でやったらどうなるかはわかりません。しかし、やってみる価値はあるのではないのでしょうか。

編集後記

従来は4ページであったNPO塾全協新聞ですが、初めて6ページになりました。今後は8ページを目指したいと思っています。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

中村基和

